

会津学鳳高校移転案に伴う跡地利用計画

8番 河井 愛
18番 中村 恵巳

<背景>

現在、会津若松市内の県立会津学鳳高校は移転することが決まっているが、移転後の土地利用方法は未定である。会津学鳳高校用地は会津のシンボルともいえる鶴ヶ城に隣接しており、更に北側には行政機関が集積し、本市のまちづくりを進める上で大変重要な土地であるといえる。

また、ここ数年会津若松市の観光客が減少の一途をたどり、会津の産業の三本柱といわれる漆・酒造・観光が衰退していることから、私達は学鳳高校移転後、その土地を利用して会津のまちづくり・観光の活性化に貢献できないかと考え、研究テーマとした。

<方法並びに経過>

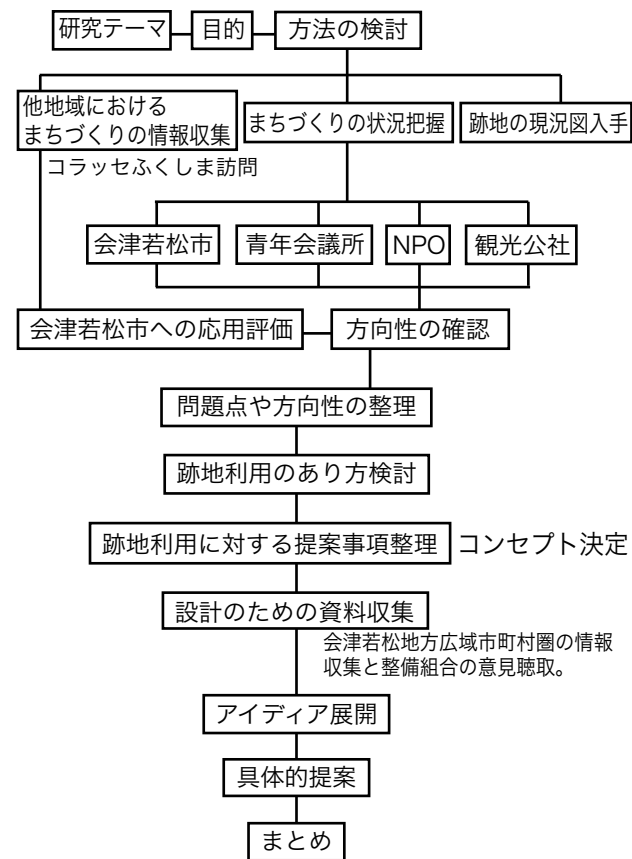


図-1 研究方法のフローチャート

<わかったこと>

現在、鶴ヶ城は駐車場の問題を抱えており、市役所・NPO・青年会議所・観光公社のいずれも跡地利用に関して「駐車場」を考えに入れていた。その解決策としては、駐車場の数を増やす他、駐車場案内を設置し、それぞれの駐車場に偏り無く駐車されるように情報提供することが必要である。

また、これからの観光施設のあり方として、観光客のみならず、地元の人達の興味・関心をひくことができるものであることが重要であるといえる。

<調査結果>

表-1 各団体の考え方

	まちづくりに対する考え・目標	跡地利用の考え
市役所	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史・自然・文化がいきづく ●個性ある魅力的な観光 ●地域イメージの確立 ●会津ブランドを活かす ●中心市街地の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場 ●武道館
NPO	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさとをテーマに ●産業の三本柱(漆・酒・観光)の活性化 ●中心市街地にとらわれない 	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場 (案内を含め) ●茶室 (三大茶会)
青年会議所	<ul style="list-style-type: none"> ●青年育成 ●人や祭、文化等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場を含めた観光施設
観光公社		<ul style="list-style-type: none"> ●駐車場 (案内を含め)
教育庁		<ul style="list-style-type: none"> ●養高校のグラウンド

・駐車場を含む観光施設(物産館)を作ってはどうか
・若松市だけでなく会津地方全体の産業の活性化に貢献できないか

- ↓
- 駐車場 ●桜や紅葉の季節、お盆等は足りなくなる。
●駐車場の案内表示等が無いことが原因で、市営の3カ所の利用率に偏りが出る。
●会津学鳳高校跡地は駐車場として好立地。
- 物産館 ●イベント等を開催し人を集める。情報発信。
●観光客のみにターゲットを絞らず、地元の人達も行ってみたいと思うようなものに。
●会津地方の各市町村を紹介し、実際そこに行ってみてほしいと思わせる。

<コンセプト>

会津地方の情報発信の場・アンテナショップ
～観光客と市民が共に集う場所～

会津地方の特産品を展示・販売する「物産コーナー」だけでなく、それらを実際に自分で作り、より身近に感じてもらうための「体験コーナー」、漆や焼き物の器を実際に使って会津ならではの料理を味わっていただくことで、会津の良さを知ってもらう「食事コーナー」と「喫茶コーナー」、そして会津をよりよく知ってもらうため、パソコンを自由に使って会津地方の様々な情報を得ることができる「情報コーナー」等を設け、複合的機能を持った「会津あいばんしょ」(あいばんしょ=会津弁で「一緒においでください」の意)を提案する。

この施設は、観光客のみならず、地元の人達にも来ていただき自分たちの住む地方の特色や文化を知ってほしい、また、この施設と積極的に関わり観光客との交流を図ってほしいという思いが込められている。

<敷地全体図と平面図>

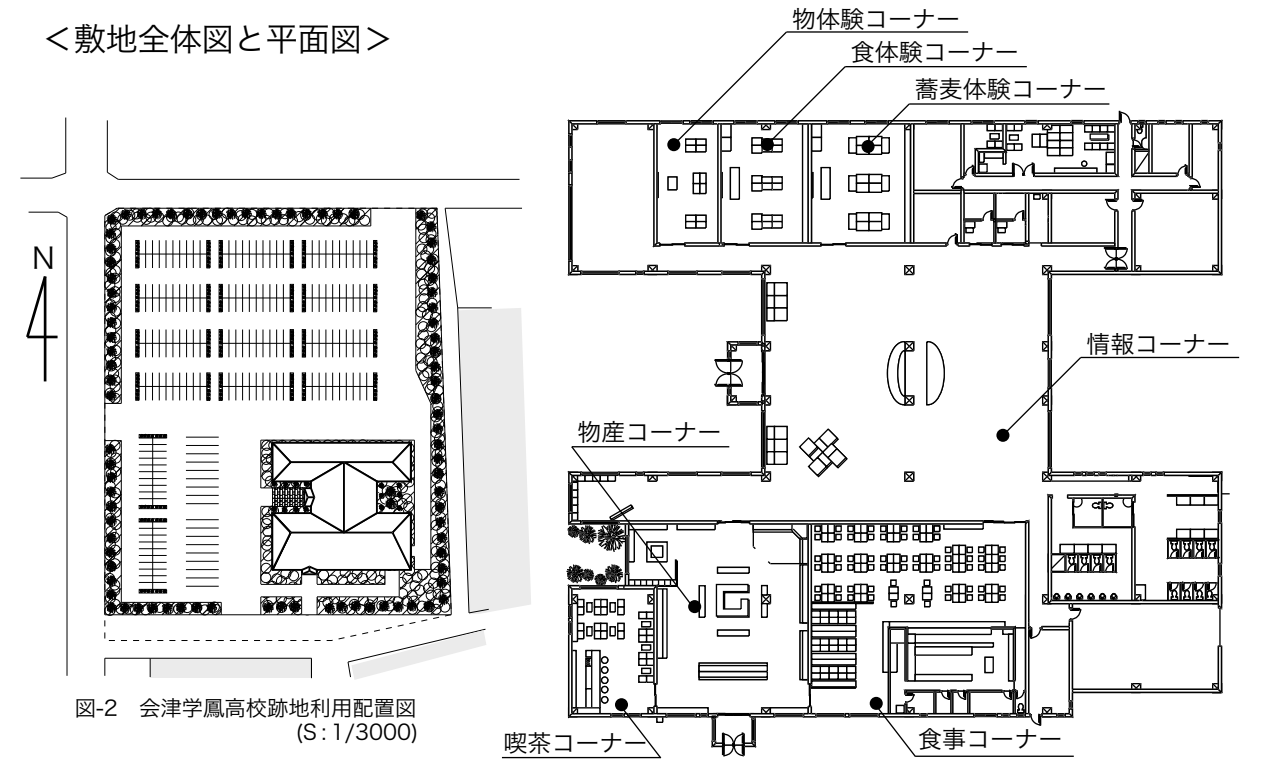


図-2 会津学鳳高校跡地利用配置図 (S: 1/3000)

図-3 「会津あいばんしょ」の平面図 (S: 1/600)

<考察>

今回、会津学鳳高校跡地の利用方法を考えるに当たり、会津のまちづくりについて各団体から様々なお話をうかがった。その結果私達は、駐車場の問題にしても観光施設の担う役割にしても「情報発信」が重要だということを知った。この施設から発信される情報を通じて観光客と市民が交流を持つことで、将来的により多くの人々が会津という土地を知り、会津を訪れ、会津地方全体が賑わうことになればと考えている。また、この施設で用いる様々な調度品や物産品は質の高い選択眼で揃えることがとても重要と考えている。会津には既にいくつもの観光施設・物産店が在るが、「会津あいばんしょ」は「市民と連携した観光施設」として他の観光施設や物産店とは違った存在意義を持たせている。また、他施設とよい意味で競争し、互いの質を高め合っていくことで産業の活性化につながることを期待している。

私達は会津に住んでいながら、会津について知らないことがたくさんあった。それはきっと私達だけではないであろう。「会津あいばんしょ」のような施設があれば、この広い会津地方28市町村がもっと知り合い、つながり合い、手を取り合って地方全体を活性化していけるのではないだろうか。